

縄文のウッドサークル 能登川正楽寺遺跡 と 近江八幡 左義長祭りを訪ねる



ウッドサークル出土の仮面での祭り

東近江市能登川 正樂寺縄文遺跡

湖東 春到来を祝う

近江八幡 左義長祭

琵琶湖 近江八幡 水郷

西湖

「湖東 能登川町 愛知川の左岸に北陸で出土するウツダサークルがあり、それを中心に仮面の祭りを行っていた。もっとも今は工場用地でなにもないが・・・」と教えてもらう。

縄文人の心を映す縄文のサークル。関西ではなかなか見られぬ祭りの場。ここは場所がいい。

丘陵地でないが湖東平野の田園地帯の中、西に琵琶湖越の比良 北に伊吹山 東から南に鈴鹿の峰々が浮く。きっと素晴らしい景色が見られるはず。

雪を抱く近江の山々をバックに縄文の祭りが行われたところで、また、春になったら すぐに行こうと。 また、近江の祭りが一緒にみられれば・・・と調べると3月14・15日近江八幡 左義長祭。雪をかぶった比良も観たいし、もう数年 春になると決まって青春 18 きっぷをポケットに出かける近江。今年は湖東へ。



3月15日快晴の日曜日の早朝 新快速電車で飛び乗って、東近江を訪ねました。

能登川 正楽寺のウッドサークルはもう工場敷地の下でしたが、ここからは予想通り田園地帯の向こうに 西から 雪を抱く比良 湖北の赤坂山 そして 北の正面に雲に包まれた伊吹山 東から南には 鈴鹿の霊仙山 御池岳がべつとりと雪をつけ堂々とした姿で座っていました。森の中ではありませんが、おそらく 広い葦原が続く 愛知川の川岸で、これらの山々が見守る中で祭りが行われたのだろう。遺跡の詳細はまだ 良く知りませんが、イメージどおりの素晴らしい縄文の祭り場でした。

能登川は小さな集落が広大な湖東平野の中に点在する農村と思っていましたが、JR能登川駅前を中心に新しい住宅地が広がる若々しい街に大変身していたのにもびっくりです。

(いつも電車・新幹線で通り抜けるだけでは様子がわからぬ典型です。)

まだ 桜には ちょっと早かったですが、どこまでも広がる田園地帯の向こうに雪をつけた山が浮き、田圃の土手には菜の花と土筆。水温む葦原の湖岸では、大物がつれたとき聞きつけた太公望たちが釣り糸をたれ、街では多くの若者に担ぎ上げられた左義長(これはもう御輿)が春を謳歌して 街を練り、ぶつかり合う。

ボカボカ陽気の春満喫の東近江 walk。特に記録することもないので 写真中心の報告です。



1. 縄文のウッドサークルがあった能登川 正楽寺縄文遺跡

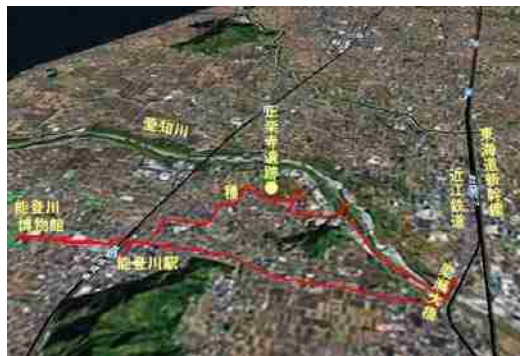


JR 東海道線 —J 能登川駅 —能登川博物館—能登川 種集落 —田園の中を愛知川左岸の種集落地先の工業団地—正楽寺縄文遺跡（現在 東洋製罐 滋賀工場建設中 ）—神郷 滋賀県消防学校 —愛知川左岸—愛知川左岸道路を築瀬・五個荘集落へ— 幹線・近江鉄道が一緒に愛知川を渡る築瀬大橋—バスで JR 能登川駅— 新快速電車で一駅戻って JR 近江八幡へ



新しい街づくりが着々と進む JR 能登川周辺

新快速電車が走り 京都・大阪への通勤圏・ベッド タウンへ変身



快速電車が疾駆するようになって、京都・大阪への通勤圏・ベッド タウンとなって、新しい街づくりが進んでいる JR 能登川駅周辺。以前は湖東平野の田園地帯がどこまでも続く一帯とイメージしていましたが、随分様子が変わりました。

正楽寺遺跡はインターネットで、駅の東側に広がる集落を北に抜けた愛知川左岸に広がる田園地帯の中と地図とともに確かめてあるので、今日は楽チン。でも 聞く話もインターネットをみても 遺跡の概要があるだけで、現在の状況は良くわからない。

インターネットに掲載されていた山々に取り囲まれたひろばにあるウッドサークルの中で祭をする姿に魅せられ、素晴らしい場所に違いないと。駅の反対側である北 1KM ほどのところ

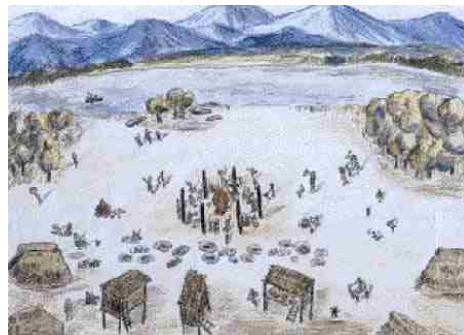
にある能登川博物館で「種町の集落を抜けると田園地帯がひろがり、その奥に今工事している工場用地の中が正楽寺遺跡。行っても なにもないよ」と。

毎度の話であるが、何もなくても やっぱり 行くと 素晴らしい自然の景色に出会える。それが 縄文遺跡。

今回は山麓の尾根筋や丘陵地の丘の上ではなく、暴れ川 愛知川が琵琶湖へ流れ込む河口より少し上流側の平地。現在は整備された田園地帯であるが、かつては 愛知川が流路を幾筋も変更し、川の岸に接していた場所のようだ。

能登川駅周辺では線路はまっすぐ東へ伸び、その線路を十字にクロスして 愛知川が南から北側の琵琶湖へ流れ込む。

東へ伸びる線路際に大きな工場が遠望され、区画の整備された住宅地の中の広い道路を階段状に曲がりながら南東へ抜けていけば「種」集落で、その奥 愛知川の左岸に沿って 新しい工業団地がある場所が遺跡。



ぽかぽか陽気の中、新興住宅地に「新種町」の標識がみえ、その中を抜け、南北に伸びる広い道路を少し進むと田園地帯が広がり、その東側に小さな集落が見える。駅から約15分 入口に「種」の標識が見え、そこから北へ集落の中に入る一本道が奥へ続き、それを抜けると、愛知川左岸に広がる広大な田園地帯が見えてきた。

田園地帯 空と田畑とをわける緑のベルトが愛知川の左岸 手前に工業団地が見え、その背後には 鈴鹿の白い峰がうっすら見える。正面が建設中の工場。この中の一角が正楽寺縄文遺跡だろう。

インターネットでは遺跡の位置をもっと西にマークがついているが、博物館で聞いた位置である。

集落の外れで 再度確かめると建設中の工場の中で間違いなし。ウッドサークルが見つかった平成5年には、休日この集落界限驚くほどの見学者があったという。また、今は案内板も何もないので、だんだんわからなくなっていると。

周囲の山々 田園風景を楽しみながら、工場の金網堀に沿って歩く。



新種町を抜けると広い南北道路が田園地帯へ

南北道路から見た北側 田園地帯を JR が東西に伸びている



南北道路の東側 田園地帯の中に種町の古い集落



集落を東に抜けると広大な田園地帯が広がり、愛知川左岸の緑のベルトまで広がっている

左手中央 愛知川の土手(緑のベルト) 鈴鹿の山々の手前に工場団地

正面 工業団地の中が 正楽寺縄文遺跡 北側より



西北 集落の奥に比良の峰々



雲の中 伊吹山 そその右に白い霊仙山 愛知川の左岸 背後 左 霊仙山 右 御池岳





正楽寺縄文遺跡 周辺の田園地帯 北側より



種町の集落を抜けると田園地帯 田の畦には 土筆が顔を出し、タンポポ・菜の花が黄色い花をつけていた。



工場建設が進む正楽寺遺跡のある工業団地 南西角周辺より

■ 正楽寺縄文遺跡 概要 滋賀県東近江市能登川 [滋賀県文化財学習シート](#) [正楽寺遺跡より](#)

正楽寺遺跡は、神崎郡能登川町大字種(たね)地先の田園地帯、愛知川左岸の標高96m 地帯に立地する縄文時代後期前葉(約4000 年前)の集落跡で、西日本最大級の縄文遺跡として注目を集めた。主な遺構建物 5 棟、掘立柱建物跡 14 棟、ドングリ貯蔵穴 130 基以上、サヌカイトを用いた石器製作場、環状木柱列など。また、集落側の岸辺に多量の土器や動物遺体などが堆積した土器塚が、130m 以上にわたって確認され、様々な遺物が出土。さらに環状木柱列に近い土器塚最下層から、このムラのリーダーだったと思われる丁寧に埋葬された屈葬人骨が 1 体見つかった。



環状木柱列から川岸までの空閑地はマツリ広場と思われる重要な場所で、木柱列は 6 本の柱を径約 6m の円環に建て並べたもので、中央に直径 1m あまりの大きな篝火をたいた焼け痕があり、ここで火を使ったマツリがおこなわれていたことが判明している。

木柱列近くで見つかった土面は、実際にかぶれ大ききで、日本最古級。土面を被り、カミになりかわりマツリが行われたのかも知れない。

やっぱり 縄文遺跡は素晴らしい景色が見られる位置にある。

残念ながら 春霞でくっきりとは山が見えないが、広大な平原の周囲を山々がぐるりと取り囲み祭りの場を演出したのだろう。

今日は雲に隠れて伊吹山が見えないが、愛知川の流れの向こうに真っ白な伊吹・霊仙の山が神々しくそびえている。



午後 訪れた能登川の町並みが遠望できる西側の近江八幡 西の湖からは 西の湖の葦原・湖面の向こう側に
真っ白な姿で 能登川の街の上に 伊吹山 霊仙山が浮かんでいました
縄文の正楽寺遺跡の祭りの場からも こんな風に見えたのかもしれない。

縄文人たちの神聖な場 現在はもうその景色はイメージとしての想像の中であるが、今も 東近江の素晴らしい田園風景は今も広がっていました。

良く観ると 幾人もの人が、この工業探知周辺のあぜ道を walking している。また、首から双眼鏡をぶら下げている人もいて、このあたりはバードウォッチングに最適なのだという。日本海側から琵琶湖そして鈴鹿越は人ばかりでなく、野鳥にとっても古くからの通り道なのだろう。

まだ 愛知川に出会えてないので、愛知川の土手に出たいが、この工業団地の中からは道がなく行けない。

また、工場内を抜けても やっぱり ひどいブッシュだという。

一旦 広い道を西へ抜けて 神郷集落から南へまっすぐ、土手に出て、土手の上を五個荘・八日市への道をたどって、

築瀬大橋まで歩いて、そこからバスでまた、能登川の駅へ出た。

ポカポカ陽気の半日 能登川 正楽寺縄文遺跡周辺の春を楽しみました。

関西では少ない縄文遺跡の関連地 ゆったりとした気分になれる郷歩き。 午後は近江八幡の左義長祭りへ。



神郷集落側(西側)から 東側 正楽寺遺跡周辺 西側より



正楽寺遺跡のすぐ近く 両岸がブッシュの愛知川



能登川の南西 築瀬大橋周辺の愛知川

北陸のウッドサークルの目的は何なのか 良くわかっていませんが、この正楽寺遺跡のウッドサークルの近くにはリーダーと思われる人骨が出土したという。 やっぱり、ウッドサークルもストーンサークルと同じく墓 葬送の祭りの場と考えるのが妥当なのでしょうか……。

関西にはあまり象徴的な縄文遺跡がありませんが、海を渡る船が出土した若狭の鳥浜海貝塚 そして ウッドサークルのこの正楽遺跡。

日本人の心を映すという縄文が関西でも良く知られるようになってほしいものである。

【参考】

滋賀県東近江市能登川 滋賀県文化財学習シート 正楽寺遺跡

和鉄の道 Iron Road 縄文の心を映すストーンサークル

7iron07.pdf

和鉄の道 Iron Road 北陸・能登 に点在する縄文のウッドサークル探訪

4iron09.pdf

2. 湖東 春到来を祝う 近江八幡 左義長祭



信長 にルーツを持つ 滋賀県近江八幡 左義長祭

写真は 3.15. 昼 日牟礼八幡宮境内 左義長同士の組み合わせ(けんか)

● 近江八幡 左義長祭りの由来等概説

近江八幡市 HP・観光協会 HP などより



近江八幡 左義長祭り 近江八幡観光物産協会 HP より

左義長は元来新年に行われる火祭行事を指し、大阪では「どんとやき」と呼ばれる。旧正月を中心に14日夜か15日朝、正月の飾り物などを広域に集めて焼く行事であり、1年の無病息災を祈って現在でも全国各地で行われる。

近江八幡左義長祭りは毎年3月14・15日に近い土・日に行われ、今年は3月14日・15日。

400年以上の歴史があり、毎年正月に安土城下で盛大に行われていた左義長祭に織田信長が変装して加わり踊った安土城下の祭りが起源とされている。新年 旧正月の行事がなぜ3月に八幡で行われるのかというと、織田信長が亡くなった後、豊臣秀次が八幡城を築き、安土から多くの町人たちを招いて城下を開町した折に、既に4月に行われていた氏神八幡宮の例祭「八幡まつり」の荘厳さに驚き、これに対抗し、移住してきた町人たちを中心に新進気鋭の喜びと感謝の意を込めて、3月 左義長を八幡宮に奉納したのが八幡左義長ルーツと伝えられている。

左義長の本体は新ワラで編んだ高さ約3メートルの三角錐のたいまつですが、その上に竹を立て、細長い赤紙や薬玉、巾着、扇などで飾られます。また、左義長の中心に据え付けられた「だし」はその年の干支（えと）にちなんだものを海の幸（海

産物) や山の幸(穀物等)で作られている。

左義長の担い手は踊子と呼ばれ、その服装は、揃いの半纏を羽織る姿が一般的です。近年は少数になりつつありますが、女物の長襦袢を着用したり、化粧をするなど、変装した格好で左義長まつりへ参加するものも少なくはありませんでした。

これには、諸説ありますが、織田信長が自らの正体を隠すために派手な出で立ちで参加したとの話を、近世の人々が変装するものと解釈したのではないかとされています。

初日の午後は日牟礼八幡宮に参集した十数基の左義長が市内巡行しますが、翌日はそれぞれが町を練り歩き、「けんか」と呼ばれる左義長同士の「組み合わせ」を繰り広げ、二日目の夜には八幡宮境内で次々に燃やされる。

燃え盛る左義長の周囲で女装した若衆が乱舞するのが、祭りのクライマックス。

その様は織田信長の気性を想像させるといわれる。

3月15日午後 JR 近江八幡駅に降り立つ。駅前に左義長祭りの幟が何本もはためいているが、いたって静か。やっぱり、夜 左義長に火をかける時でないと盛り上がらないのか・・・と思いつつ、まっすぐ北の八幡山へ続く大通りを歩く。近江八幡へは何度か来たことがありますが、左義長祭りを見るのは初めて。

通りにある近江八幡の和菓子屋「たねや」の前を通過して15分ほどで旧城下に入る。ちらほら町を染め抜いた法被を着ている若者や子供が歩いていて、祭りのムードが漂ってくる。ここまできるとカメラをぶら下げリュック姿の観光客も多くなる。

古い町並みが残る中 近江八幡の観光の目玉 八幡堀 かけられた橋を渡ったところに日牟礼神社の大鳥居が

あり、その中は日牟礼八幡宮の境内で境内の縁の参道には露店が立ち並び、人でごった返している。

中央部には左義長が集結し、左義長を担ぐ人の掛け声や左義長の担ぎ棒の上から指揮を摂る笛 境内を練っている左義長に近づくとなど叫ぶマイクの声 それを取り囲むように見物するぎっしりの人で騒然。境内の外とは別世界である。



日牟礼神宮へ入る手前の近江八幡 旧市街



日牟礼神宮の境内へ入る八幡堀 鳥居前周辺

各町々を練り歩いた左義長は八幡山の山裾の日牟礼八幡宮の境内に集結していて、境内を練りながら 左義長同士が正面から組み合って押し合う。そして、左義長が跳ね上げられたり、横倒しになったら負けだといい、これを「けんか」といい、境内のあちこちで、これを繰り返している最中である。「けんか」というのがどうも正式名らしい。びっくり。



日牟礼八幡宮の境内に集結した左義長 同士相手を見つけて正面からの組み合わせる左義長の「けんか」 2009. 3. 15.
大阪では 祭りで練っていた地車（だんじり）同士が出会うとぶつかり合い、相手を跳ね上げるのを「けんか」といい、胸をわくわくさせながら 地車を追っかけ、見物に出かけたものでした。あまりにも危険で禁止されて以来トンと聞かなかった言葉です。 まだ 本当に正面から取っ組み競う「けんか」が残っているのにびっくり。
でも 地車のけんかのような殺気だった空気もなく、お互いラグビーのスクラムのぶつかり合いを楽しんでいるような空気で、見ている人もそれを楽しんでいる。 観光客を意識しない、昔からの町を挙げて 祭りを楽しむこの左義長祭りの伝統が今も残っているのだろう。 よう 怪我人がでないものだと思うのですが、酒を飲みすぎている風もなく、それぞれの左義長があまり無茶をやらないようそれぞれ良くコントロールされているのだろう。 子供の佐義長同士でも組み合わせが行われていたのにもびっくりでしたが、良くコントロールされているので、怖さはない。

左義長祭りのクライマックスは夜なのですが、昼間 境内の中で行われる左義長同士の組み合わせ「けんか」も子供の頃を思い出す、迫力のあるものでした。この左義長同士の組み合わせ「けんか」を経て 夜 それぞれの左義長に順番に火をかけて祭りが終わる。火をかける時間が8時頃 全部祭りが終わるのが夜半と聞いて、それを見るのはあきらめました。
境内には人であふれかえり、熱気ぶんぶんなのに本殿前には人まばら。本祭りが4月の「八幡祭り」でほとんど神社臭さがなく、観光客に見せるというより、それぞれ 町ぐるみで祭りを楽しんでいる風に見えるのもそのルーツからの伝統に根ざしているのかも知れません。ここにも信長の時代バサラの気風が残っているのかも知れないなあ・・・と。
おもしろくもあり、うらやましくもある祭り 奇祭である。
そんな 湖東に春を告げる近江八幡の「左義長祭り」昼の祭りの様子を写真アルバムにしました。

写真アルバム 滋賀県近江八幡 左義長祭 2009.3.15.





3. 近江八幡 水郷 西の湖



近江八幡 八幡山から眺めた水郷・西の湖

近江八幡の旧市街地から約2kmほど東へ市街地を抜けたところに、葦原が広がる水郷風景が広がる湖 水郷「西の湖」がある。西の湖につながる葦原の広がる湿地の水路を舟に乗って巡る写真。私も一枚そんな風景写真を撮りたいと、左義長祭りを見た夕方、足を伸ばしました。

残念ながら4月にならないと定期舟がです。葦原が広がる水路に沿って西の湖まで歩きましたが、ここでも美しい琵琶湖の春の景色を見ることができました。



水郷 西の湖 湖岸より 東側

湖の向こうに能登川 雪をいただいた伊吹山 霊仙山を遠望



水郷 葦原の水路より 北側

山々の背後に琵琶湖が隠れている



近江八幡の東側に広がる西の湖を中心とした広大な湿地 水郷 葦原の水路



水郷の南側には良く整備された田園地帯 緑の麦畑が延々と続く 右端が 近江八幡 新市街地方面



良く整備された畦では春を告げる土筆が顔をだし、畦の野焼きが始められていた



水郷 湿地帯の中央部 多くの葦原を形成しながら琵琶湖に流れ込む長命寺川周辺 2009.3.15.



近江八幡 水郷 2009. 3. 15.

近江八幡水郷の湿地帯はへら鮒
そして野鳥の宝庫

最近 へら鮒の大物が続けて釣れたとかで
多くの釣り人が糸をたれていた。

また、湿地にはカモなど多くの鳥が 葦原の
間を泳いだり、飛び立ったり。

水郷巡りの舟が行き交う前の
ゆったりとした空気の春の景色です。

また、能登川で見られなかった伊吹山が西の
湖の湖面の後ろに白く輝いているのがみら
れました。